

## 一般口演 2 術式、外科処置

2022年9月24日(土) 16:10~16:40 第6会場(名古屋国際会議場 2号館 3F 会議室 232+233)

大塚 保光(インプラント再建歯学研究会)

### O-1-6-34

#### 多目的手術用ダブルブレード双頭メスブレードホルダーの開発

○増木 英郎<sup>1)</sup>, 鯨岡 創一郎<sup>1)</sup>, 谷川 淳一<sup>1)</sup>, 奥寺 俊允<sup>1)</sup>, 荻原 真<sup>1)</sup>, 岡 吉孝<sup>1)</sup>, 河奈 裕正<sup>2)</sup>, 奥寺 元<sup>1)</sup>

<sup>1)</sup> 東京形成歯科研究会, <sup>2)</sup> 神奈川歯科大学歯学部歯科インプラント学講座顎・口腔インプラント学分野

#### Development of multipurpose surgery double blade double-headed scalpel blade holder

○MASUKI H<sup>1)</sup>, KUJIRAOKA S<sup>1)</sup>, TANIGAWA J<sup>1)</sup>, OKUDERA T<sup>1)</sup>, OGIHARA M<sup>1)</sup>, OKA Y<sup>1)</sup>, KAWANA H<sup>2)</sup>, OKUDERA H<sup>1)</sup>

<sup>1)</sup> Tokyo Plastic Dental Society, <sup>2)</sup> Department of Oral and Maxillofacial Implantology, Kanagawa Dental University

I 目的: インプラント手術を安全に迅速に行うことは、患者の安心感と共に治療にもかかわり意義あることである。とくにメスによる切開処置は、多種多様な方法が存在し、中には煩雑なものもあつた。確かな操作が要求される。そこでわれわれは、そのような切開や粘膜の形成に貢献させるべく安全性と迅速性とを重視し、手術に効果的な一本の器材で多種多用途の機能を有した、ダブルブレード双頭メスホルダーを開発したので報告する。

II 症例の概要: 開発したダブルブレード双頭メスホルダー(オクデラメディカル, YDM, 東京)は、ステンレス SUS303 製で、円筒形の把持部を有する 148mm 長の、両端のそれぞれに 2 枚のメスを装着できるアタッチメントを備えたメスホルダーである。両端それぞれのメスのアタッチメントは、ブレード間の距離が 2mm 幅と 3mm 幅とに設計しており、通常の替え刃式メスホルダーに準じて、用途に応じた替え刃メスをアタッチメントにスライドしながら確実に装填できるようにした。なお、把持部は、直径 9.5mm、長さ 90mm の格子加工により、手指の把持感を良好にしている。実臨床では、症例に応じてメスホルダーの両端にある切開幅、2mm と 3mm とを選択する。ダブルブレードの意義は 2 本の切開線で一定の幅を保持しつつ、切れ損じることなく切開できることで、近接した 2 本の切開線が明確となるのが特徴となっている。具体的な手術対象は、口蓋部結合組織採取、上顎結節部結合組織採取、粘膜骨膜減張切開を想定した。

III 考察および結論:

1. 口蓋部結合組織採取: No. 15 や No. 15C ブレードを付け、粘膜上皮を一部付帯させながら、同一幅の採取が可能であった。
2. 上顎結節部結合組織採取: No. 12 ブレードを付け、口腔後方で切れ損じ無く容易に組織を採取できた。
3. 外側性骨造成術での粘膜骨膜減張切開: 2 本のラインで一定幅の減張切開が可能で、1 本ラインの減張切開よりも粘膜骨膜弁が伸張した。
4. 創面治療: 切開線が明確であり、挫滅創にはならず創の治療が良好であった。
5. 1 本のメスホルダーに異なる幅の先端を備えるため、2 つの用途が一つの器材で済み、手術効率と経済性に優れた。

以上、開発した本器材は、多くの術式への用途、創治療への配慮、手術効率、経済面において、有効なインスツルメントの一つと考えられた。